

国際青年環境NGO

A SEED JAPAN

持続可能で公正な社会を目指して

2014 年度年次報告書



目次

代表・事務局長より	…p.2
アースデイ東京／組織基盤強化	…p.3
各プロジェクト報告	…p.4-13
組織概要	…p.14
2014 年度財務状況	…p.15



代表・事務局長より

みなさまの多大なご支援により、91年設立のASJは今年度で24年目を迎えることができました。この長い歴史の中で、ASJは日本の青年が集い、成長しながら活動を展開する「場」として機能し、公正な社会の実現に向け、1つ1つ多様な実績を積み重ねてきました。その中で、最近では「ごみゼロナビゲーション」との発展的な事業分離、NPO法人化等の組織内の改革を行うとともに、世界7ヶ国をまたがるグローバルなキャンペーンである「フェア・ファイナンス・ガイド」の運営団体を担う等、新しいインパクトを生み出すための活動も展開しています。

さて、この20年あまりで日本社会も変わり、NPOやNGOに対する認知度も大きく高まりました。最近では社会的企業や社会的インパクト投資等の「社会貢献型」の事業が1つのムーブメントとなっています。しかし一方で、環境・社会問題の根本原因を考え、それを取り除くための活動、具体的には大手企業や政府への提言（＝アドボカシー）活動等が、やや軽視され、日の目が当たりにくくなっている風潮も感じています。

ASJとしては、そうした新しいムーブメントを起こしている各セクターのみなさまと連携しながらも、あくまで「長期的に環境・社会問題の根本解決を目指す」というスタンスを堅持しながら、効果的な活動を展開していきたいと考えています。それは、短期的に「〇〇人を救える」というようなインパクトの可視化がしにくい活動かもしれません。寄付や人材が集まりにくい活動かもしれません。ただ、誰かがやらなくてはならない活動がそこにある。その信念を団体運営の基礎として邁進していきたいと思えます。

今後も、継続的かつ暖かいご支援をいただければ幸いです。



2015年度共同代表
土谷和之



2015年度共同代表
永井 亮

私のような20代前半の若者が日本の環境問題、そしてその根本にある大きな社会問題の解決の一躍を担うことができるのか、これは2012年に私がA SEED JAPANのメンバーになって以来、常に心に抱いていました。A SEED JAPANはこれまで24年の歴史の中で、国際会議での提言や企業との対話を若者が主導で行って来ました。こうした活動が大きな成果として結びついているのは、現場での発信力や政府・企業との対話力といったアウトプットのみならず、社会問題に関する調査をし、将来の情勢を見据えたA SEED JAPANならではの見解をもっていたからであると私は考えています。

しかし現在、グローバル化によってますます世界は“経済成長”に向かっています。一方、エネルギーや食を中心とした日本の環境問題はますます複雑化・深刻化しています。そのような中でも、私たちはこのような課題に対して構造からとらえ直し、地域目線で、確かな情報を多くの人々に提供する姿勢を若者中心で展開していきます。

そのためには、24年間A SEED JAPANを築いてきた多くの方々、そして今もA SEED JAPANを支援していただいている方々の力が不可欠です。様々な形でスキルやノウハウ、経験を共有しあい、多様化する課題に対してやりがいをもって挑んでいく人々のコミュニティを形成していくことが、私にとって大きなそして楽しみな目標です。

今後も若者が中心となって活躍していくA SEED JAPANの活動にご期待ください。

「A SEED JAPANは、“なぜ?”を何度も繰り返すんです」――私が当団体に入会するきっかけとなった団体説明会で、当時の事務局長が話したフレーズを、今も大切にしています。25周年目を迎えたA SEED JAPANを卒業した歴代のメンバーは今、世界中で地域・職種を問わず、様々な社会問題に向き合い、活躍しています。

社会の一定の価値観に染まりきっていない、あらゆる価値観から自由な“青年”のエネルギーはものすごい。そして、多くの失敗や苦勞の末に何かを成し遂げた達成感を胸にASJを去って行ったメンバーは、そのエネルギーを持って次のステップへと進んでいく。私が事務局長としてできることは数少ないかもしれませんが、ここに集うメンバーと苦勞・成功を共にし、人生の転機を作る一助になればという思いです。

一方NGOとして、問題への当事者性を持ち、本当に困っている人たちと一体感を持ったアドボカシー活動を行っていきたくと考えます。そして企業や政府の意志決定者たちと持続可能な社会のビジョンを共有し、ロジックを組み立て、ともに社会を変えていく…そんな活動を作り上げていけたらと、考えています。

政府も企業もNGOも、「これで絶対正しい」と思ったら終わり。現場へのまなざしと自由な価値観を持ち、常に問い続けることからしか、問題の本質は見えてこない。

今後とも、社会問題の解決とそれを目指す青年の育成にご協力いただけますと幸いです。



2015年度事務局長
西島香織

アースデイ東京 2014

10万人が参加する地球フェスティバル

アースデイ東京 2014 事務局を担いました

アースデイ(4/22)は 1970 年に始まり、現在は世界 175 カ国、約 5 億人が参加する社会運動です。

NGO/NPO を中心とした複数団体による単年度の実行委員会形式で運営されており、A SEED JAPAN はアースデイ東京 2014 の事務局を担いました。当日は 400 を超える団体と 200 名以上のボランティアとともに、様々なトークステージやブース出展を運営しました。



4/18(土),19(日)

アースデイ東京 2014 参加企画

「ワカモノ×ミライ」を開催しました

アースデイ東京 2014 の企画参加で、若者団体の出展コーディネートをしました。当日は 5 団体、総勢 50 名の若者と共に出展。その他、メインステージ、オフィシャルトークステージへ出演しました。出展団体：A SEED JAPAN、エコ・リーグ、文京学院大学 環境教育研究センター、United Youth、Food For All

組織基盤強化事業

いくら立派な荷積み(=事業)があっても、それを支え運ぶための船(=組織)がもろいと船ごと沈んでしまいます。当団体でもたとえば会議の議事録やイベントの会計、人材育成や資金調達など、活動を行う上で必要な組織の基盤をつくる必要があります。2014 年 1 月からパナソニック NPO サポートファンドの助成を受け、3 年かけて組織基盤強化を行うことを決め、取り組んでいます。



1年目【組織課題分析】

- ・理事会(経営主体)の機能の明確化
- ・中期計画の策定の必要性-ミッション・ビジョンの再確認

2年目【目標づくり・戦略づくり】

- ・中期計画づくり
- ・定款の見直し
- ・事務局体制の強化
- ・財政目標の設定
- ・支援者のコミュニティづくり
- ・会員制度更新検討
- ・パンフレット刷新

3年目【戦略の実施】

- ・社会的成果の可視化
- ・それぞれのニーズに合った会員制度
- ・広報戦略強化
- ・新事業の立ち上げ検討

本プロジェクトは、PanasonicNPO サポートファンド助成を受けて実施しております。また、外部アドバイザーとして1年目は日本NPOセンターの田尻佳史氏、認定NPO法人まちぼつとの奥田裕之氏に、2年目はNPO法人カタリバ事務局長・ソーシャルベンチャーパートナーズ東京共同代表の岡本拓也氏にコンサルティングをしていただきながら進めております。団体の存在意義を位置から見直す1年半を過ごしました。様々なご支援・ご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。

■長期目標

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

■2014年度の活動

目標1－「Fair Finance Guide」の推進

日本での「Fair Finance Guide」の活動を推進することで、お金の流れを使って社会をより良くしていく仕組みの構築を目指します。その第一歩として、「Fair Finance Guide」を日本中に周知し、ウェブサイトへ誘導します。そのために、ウェブサイト立ち上げに際してのイベントで100名以上の参加を得ます。1日のウェブサイトアクセス数を1,000アクセスを目指します。

結果－達成度 80%

- ・12月8日にウェブサイト「Fair Finance Guide Japan」を立ち上げ、12月9日にウェブサイトオープン記念セミナーを開催し、100名を超す参加者にお越しいただきました。
- ・大手メディア含む10以上のメディアに取り上げられました。
- ・アクセス数累積は約2万件、1日のウェブサイトアクセス数は30件ほどを推移しています。

目標2－エコ貯金を始めるきっかけづくり

預貯金先を選ぶ際、社会性をもって選ぶことを身近に感じてもらい、エコ貯金を始めるきっかけを作ります。年に2回、お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催し、各20名以上の参加を得ます。

結果－達成度 40%

- ・Fair Finance Guide Japanに注力をして活動をしたため、イベントとしては7月に開催したソーシャル・エコノミー・ダイアログの1回となりました。ソーシャル・エコノミー・ダイアログの参加者は18名と、20名以上には届きませんでした。参加者には企業の方や研究者、金融機関関係者などがお越しいただきました。今後は一般の預金者層が参加しやすいイベントも開催していきたいと考えます。

目標3－エコ貯金アクションの発信者を増やす

ウェブサイト閲覧者やイベント参加者に対して、ツイッター・フェイスブック等を利用して、「社会性を考慮に入れた結果、今預けている金融機関から他の金融機関にいくら預け替えました」という内容の発信をしてもらい、発信する人の数を400名以上目指します。

結果－達成度 40%

- ・今年はFair Finance guide Japanの立ち上げに注力したため、目標に書いてある内容の発信をしてもらうというアクションはまだ十分促せませんでした。しかし、Fair Finance Guide Japanの立ち上げ以降、ツイッターやフェイスブックでエコ貯金について発言している方が増えており、Fair Finance GuideのFBページの「いいね!」数も約800まで伸びています。

目標4－金融機関への働きかけ

「Fair Finance Guide Japan」の評価対象となっている5行の金融機関のうち2行以上がCSRポリシー（社会的責任を果たすための企業方針）の見直しを検討し始めることを目指します

結果－達成度70%

金融機関がCSRポリシーの見直しをすると公表はしていませんが、金融機関のCSR担当者からはFair Finance Guide Japanでの評価を上げていきたい旨のご発言もありました。来年度はこの目標が実現するように、更に金融機関との対話に努めたいと考えています。



上：Webサイト記念セミナーでは海外NGOや金融機関担当者も参加し、およそ70名が交流しました。

下：Webサイトでは銀行へのメッセージを送ることができます。



■年間活動実績

- 4月 アースデイ東京2014に出展
- 5月 月刊誌『社会運動』に記事を寄稿
- 7月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログを開催
- 8月 ウェブサイト『日刊SPA!』の記事に取り上げられる
- 12月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトをオープン
- 12月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトオープン記念セミナーを開催
- 12月 エコプロダクツ2014に出展
- 12月 オルタナオンライン、朝日新聞、しんぶん赤旗、週刊金融財政事情、連合通信の記事に取り上げられる
- 1月 日経エコロジー、毎日新聞、グローバルネットの記事に取り上げられる
- 2月 THE BIG ISSUE JAPANの記事に取り上げられる

チームリーダー（土谷和之）より一言――

2015年度に入ってから動きとなりますが、Fair Finance Guide Japanは第3回日経ソーシャルイニシアチブ大賞の国際部門ファイナリストにも選出され、メインストリームの経済界からも注目を集めています。また月1回開催しているフェア・ファイナンス・スクールも毎回6～8名程度の参加者を集め、高い評価を頂いています。今後はこうしたメディア露出、イベント開催を通じて得られた認知も生かしながら、銀行に対する気候変動等のテーマ別のキャンペーンを展開し、ウェブサイトへのアクセス数の増加や、銀行の方針改善へとつなげていきたいと考えています。ご期待ください。



■長期目標

- ①日本の青年と力を合わせて、世界の課題先進国・原子力災害被災国である日本の地域社会を、「生命を大事にする責任ある地域自給社会」へと転換します。
- ②東京の青年とグリーンな企業とNGOが力を合わせて、有機農業をはじめとする環境保全型農業、地域に根差した再生可能エネルギー、有機的な人のつながりから生まれる健康で安心な地域づくりの実践を進め、東京における「生命を大事にする責任ある自給社会づくり」を一般化します。
- ③上記の提言と実践を通して、国際社会が「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を定め、過剰な農薬・化学肥料・化石燃料・紛争鉱物・原子力発電・遺伝子組み換え等のリスク規制を強化する仕組みを創造します。

■2014年度の活動

目標1－青年が地域の現場にアクセスできる仕組みを作る

「生命を大事にする責任ある自給社会」を創造する東京、福島、青森、およびその他の地域の青年をネットワークし、青年が地域の現場にアクセスできる仕組み（ツアー）を作ります。

結果－達成度 75%

・六ヶ所村スタディツアー「地域と都市の『未来ある選択と連帯』を探る旅」の実施、福島県で開催された「ふくしまファーマーズマーケット ここふく」への出展、そして、毎月11日に新宿で復興ネットワークイベント「結イレブン」を開催しました。また、東京で開催されたチーム主催の勉強会やダイアログに東北あしたの森・山本勇樹さん、福島県の有機農家・大内督さんをお招きするなど、青森と福島とのネットワークを確立しました。現地ツアーや講師として呼び出す機会を複数回もつことによって現場ツアー等のノウハウを取得することができました。



上:現場ツアーではヒアリングの他、援農を行いました。

目標2－「未来の生命につながる生活」を始めるための場を創る

「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」に賛同する青年、企業、NGOをネットワークし、新宿を中心に「ミライフ＝未来の生命につながる生活」を始めるための場（農家市）を創ります。

結果－達成度 70%

・農家市を開催するに至りませんでした。東京朝市アースデイマーケットに1回出展し、書籍販売や活動紹介を行いました。また、新宿でソーシャル・エコノミー・ダイアログを開催し、青年・企業・NGOの代表者として、多摩信用金庫・長島剛さん、大地を守る会・来島晋一さん、有機農家・大内督さん、東北あしたの森・山本勇樹さんをお招きし、「ミライフ＝未来の生命につながる生活」を始めるために必要な「責任ある経済とは何か」ということについて考える場を提供しました。

目標3 — 「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を提言



2014年9月に予定している国連総会での「国連持続可能開発目標 (SDGs/Post2015)」の議論において、東日本大震災の教訓を踏まえた「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を提言し、賛同する青年・企業・NGOを募り、日本政府に「生命を大事にする責任ある自給社会」への転換を働きかけます。

結果 — 達成度 35%

・勉強会を開催し、「持続可能な地域目標」を作成しましたが、政策提言するまでに至りませんでした。しかし、3月に行ったチーム合宿を通して今後の活動方針議論をし、消費者に一番影響力のある企業ともいえるコンビニエンスストアへのアクションをしていくことが決定しました。

■年間活動実績

- 4月 アースデイ東京 2014 出展
有志で毎月 11 日に復興の集い「結イレブン」を定期開催(12回)
- 5月 六ヶ所村スタディツアー『地域と都市の「未来ある選択と連帯」を探る旅』を実施
- 6月 SDGs/Post2015 ユース提言勉強会を実施、アースデイマーケットにアクションブース出展
- 6月 ワカモノ×ミライなエネルギーについて提言を創ろう(六ヶ所村ツアー報告会)を実施(エネルギーとまちづくりプロジェクトと共催)
- 7月 有志で福島農家市スタディツアーを実施
- 7月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログ「～企業・金融・市民活動の接点～」を実施
- 10月 土と平和の祭典 2014 に出展(エネルギーとまちづくりプロジェクトと合同出展)
- 10月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログ「地域に愛を！おカネに意志を！～福島・青森・東京で『責任ある経済』の本質を語り合う～」を実施
- 12月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトオープン記念セミナーに協力
- 12月 エコプロダクツ 2014 に出展 (ワカモノ×ミライ企画)
- 3月 冊子「日常脱出マニュアル～これからのエコとおカネと就職の話」発行



上:冊子では、マスメディアでは捉えられない情報を提供しています。公式 Web サイトで閲覧可能。
<http://www.aseed.org/miraifu/>

チームリーダー (鈴木亮) より一言——

2011年、震災後に始まったミライフ(未来生活 now)も、はや5年目です。
2012年はリオデジャネイロでの国連環境開発会議(Rio+20)に参加。
2013~2014年は有機農業を主軸とした社会づくりの進化系を模索し、冊子「日常脱出マニュアル～これからのエコとおカネと就職の話」にまとめました。
2015~2016年は世界的にも普及が進む「コンビニ社会」を切り口に、政策提言NGOと若者がつながる事業を展開します。
未来のいのちにつながるライフ=ミライフと一緒に広めましょう。



■長期目標

環境やコミュニティ・人々を傷つける鉱物採掘をストップさせ、エシカルな資源利用が行われる社会を目指します。

■2014年度の活動

目標1－企業の金属採掘時の社会・環境配慮へのより根本的な取組みを促す

金属を使用する製品製造に関わる企業における、調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取組みの調査および意見交換を実施し、より根本的な取組みを促します。

結果－達成度 90%

・2014年10月17日にエシカルケータイキャンペーン実行委員会として「エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状2014」を発送し、送付した97社のうち34社から回答を得ました。また、回答企業のうち7社に訪問および会合をもち、意見交換を実施しました。また、3月に実施したイベントでは、株式会社ニコン、パナソニック株式会社よりご登壇を頂きました。

目標2－エシカルケータイキャンペーンを推進、採掘問題の認知を広める

エシカルケータイキャンペーンの実行委員会メンバーとしてエシカルケータイキャンペーンを推進し、採掘の問題の認知を広めます。

結果－達成度 90%

・2014年度は15回の実行委員会会合を行い、主な運営を担いました。また、賛同団体にナマケモノ倶楽部・アジア太平洋資料センター(PARC)(5月)、ビジネス・人権資料センター(7月)が加わり、それぞれの活動分野に関して連携してイベント・発信(ウェブサイト、メールマガジン、facebook等)を行いました。また、エシカルケータイキャンペーンのfacebookページも開設し、発信チャンネルを増やしました。



上:NGO(エシカルケータイキャンペーン実行委員会)と企業との対話の機会は年に数回設けています。

エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状 2014 及び回答表

質問 0. 鉱物・金属に関するサプライチェーン上で貴社がどの部分にあたるかお答えください。(複数選択可)

A. 鉱山採掘
 B. 精錬
 C. 一次加工 (合金等)
 D. 二次加工 (部品等)
 E. 最終製品製造
 F. 商社・卸売
 G. 最終製品販売
 H. その他 ()

質問 1. 環境・社会問題に配慮した鉱物・金属調達を行うための方針や基準について伺います。
 質問 1-1. 環境・社会問題に配慮した鉱物・金属調達を行うための方針を策定していますか。また、策定していない場合は、今後策定する予定はありますか。

A. 鉱物・金属の調達方針を策定している
 (名称・公開場所:) 例: ①E、②E、③E、④E、⑤E、⑥E、⑦E、⑧E、⑨E、⑩E、⑪E、⑫E、⑬E、⑭E、⑮E、⑯E、⑰E、⑱E、⑲E、⑳E、㉑E、㉒E、㉓E、㉔E、㉕E、㉖E、㉗E、㉘E、㉙E、㉚E、㉛E、㉜E、㉝E、㉞E、㉟E、㊱E、㊲E、㊳E、㊴E、㊵E、㊶E、㊷E、㊸E、㊹E、㊺E、㊻E、㊼E、㊽E、㊾E、㊿E
 B. 鉱物・金属に特化した調達方針がないが、全般の調達方針でカバーしている
 (名称・公開場所:) 例: ①E、②E、③E、④E、⑤E、⑥E、⑦E、⑧E、⑨E、⑩E、⑪E、⑫E、⑬E、⑭E、⑮E、⑯E、⑰E、⑱E、⑲E、⑳E、㉑E、㉒E、㉓E、㉔E、㉕E、㉖E、㉗E、㉘E、㉙E、㉚E、㉛E、㉜E、㉝E、㉞E、㉟E、㊱E、㊲E、㊳E、㊴E、㊵E、㊶E、㊷E、㊸E、㊹E、㊺E、㊻E、㊼E、㊽E、㊾E、㊿E
 C. 現在は全般の調達方針のみだが、鉱物・金属調達に特化した方針の策定を検討している。
 (策定予定時期: 年 月 日)
 D. 鉱物・金属の調達方針を策定していない。
 (その理由:)

質問 1-2. 質問 1-1 で A~C とお答えの方には伺います。策定もしくは検討されている方針についてお答えください。

鉱物・金属の調達方針において、どのような環境・社会問題への配慮を定めていますか (複数回答可)	具体的に定めている鉱物・金属、内容があればお答えください	鉱物・金属	具体的内容
A <input type="checkbox"/> 工場や事業・大気汚染を引き起こしていないか			
B <input type="checkbox"/> 野生生物や生物多様性への影響を及ぼしていないか			
C <input type="checkbox"/> 先住民、居住者の生活や土地・文化を侵害していないか			
D <input type="checkbox"/> 児童労働や、未成年労働での労働を行っているか			

1



左：公開アンケートは公式 Web サイトで内容を掲載しています。
 右：アンケートの回答やドッド・フランク法の動向を踏まえセミナーを開催。

■年間活動実績

- 5 月 ナマケモノ倶楽部が実施するエクアドルの鉱山開発候補地に向けたアクションに協力
- 6 月 PARC 等と共催で公開勉強会「日本の希少資源調達とアジア」私たちのケータイがマレーシアで放射能汚染を引き起こす？－日本の資金で拡大するレアアース加工工場 を実施 (エシカルケータイキャンペーン実行委員会)
- 6 月 マレーシア・レアアース精錬事業における適切な環境社会配慮・住民協議を求める要請に呼びかけ団体として参加、9 月提出
- 10 月 エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状 2014 を発送、11 月回答期限。(エシカルケータイキャンペーン実行委員会)
- 12 月 エシカル連続講座 vol. 1 「日本の『エシカル』、今どのあたり？」を開催
- 3 月 エシカル連続講座 vol. 2 「消費者としてのエシカル ～ラッシュジャパン、ピープル・ツリーの取組みとアクティブコンシューマリズムから考える～」を開催
- 3 月 エシカル連続講座 vol.3 「公開質問状結果から考えるエシカルな鉱物・金属調達～ドッド・フランク法 紛争鉱物対応を超えて～」を開催
- 3 月 港区立エコプラザセミナー 「エシカルメタルって何だろう？」に加治が登壇

エシカルケータイキャンペーンについて
 私たちが普段使っている携帯電話などの電子機器には、様々な金属が使われています。しかし、その金属の元となる鉱物を採掘する過程で、生物多様性の破壊、人権侵害などのさまざまな環境・社会問題が起きていることは、あまり知られていません。
 エシカルケータイキャンペーン実行委員会は、採掘問題の認知を広め、製品を通じて採掘問題を解決することを目指して、2010 年 7 月にエシカルケータイキャンペーンを開始しました。「エシカル」な金属調達をメーカーに求め、市民・団体の賛同を募っています。
 ぜひこのキャンペーンにご賛同ください。
 (Web サイト: <http://www.ethical-keitai.net/>)



■長期目標

化石燃料由来のエネルギー等の利用について改めて見直し、再生可能なエネルギーを誰でも選択し、利用できる持続可能な社会を目指します。そして、市民として、身近な市区町村単位での小規模な地域コミュニティの自治に関わるきっかけが見えやすい、参加型社会を創っていきます。

■2014年度の活動

目標1 ー地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やす

日本各地で生まれている地域分散型のエネルギー自給の取り組みについてワカモノに普及啓発を行い、地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やします。

結果ー達成度 40%

- ・内部勉強会や岡山県西粟倉村でのエネルギーの地域自給の取り組みについて学ぶ場を持ちました。参加者層は、これまで市民電力連絡会への参加やエネルギー関連のイベント等でつながってきた方、エネルギーに関心の高い方が中心に20名が集まりました。
- ・土と平和の祭典2014やエコプロダクツ2014に出展しました。市民電力連絡会の資料を参考にして東京の市民発電所マップの立体模型を作成し、来場者の方に市民発電所が東京にも多く生まれていることを可視化することによって、東京という地域でのエネルギー自給に取り組んでいる市民発電所についての紹介を行いました。メンバーにとっては初のブース出展の機会であり、伝えるということの難しさやエネルギーとまちづくりプロジェクトとしての活動及びコンテンツをつくっていくことの重要性をより実感する機会となりました。試行錯誤の1年だったので、より具体的な活動をつくっていくことが、2015年度の課題です。

目標2 ー首都圏における自然エネルギー普及について話し合う場の構築

首都圏において市民発電所の取り組みをしている団体とこれからの自然エネルギー普及について話し合う場をつくりまします。

結果ー達成度 20%

- ・首都圏において市民発電所に取り組んでいる団体と直接的に自然エネルギー普及について話し合う場をつくることは出来ませんでした。しかし、ASJとしてPower Shiftキャンペーンの賛同団体となったり、市民電力連絡会等のプロジェクトと共通のテーマで話し合う場に積極的にメンバーが参加したりしました。
- ・2015年3月には、2016年からの電力小売り自由化に向けて「エネルギー×金融」という視点から、本プロジェクト初の主催シンポジウムを実施。日本のエネルギー政策の現状を踏まえ、カナダ・オンタリオ州での電力自由化を巡る動向やドイツにおける市民の取り組み、市民ファンドや疑似私募債など、市民発電所の創設に重要な資金調達手段、日本の地域金融機関のエネルギー事業への取り組み、ドイツでのGLS銀行の紹介があり、今後日本においてどのような取り組みが出来るかという点について考える機会を持つことが出来ました。今回のシンポジウムは、今後の市民・地域共同発電所の実務を担う方、エネルギーに関心のある市民、研究者など25名が参加し、これまで接点のあまりなかった人たちをつなぎ、広い議論をしていくきっかけとして、意義のある場になりました。

目標3 地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進

地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進するために、地域の制度および政府の政策に働きかけます。

結果ー達成度 10%

・政策提言をする段階には至りませんでした。Power Shift キャンペーンの会議に参加することなどを通して日本のエネルギー問題を取り巻く状況、特に2016年の電力小売り自由化に向けて今どういった働きかけが必要とされているのか、今後の政策提言をしていく上で必要となる情報を得ることができました。



上：土と平和の祭典では居酒屋をモチーフに食・エネルギー・お金の選び方を紹介。

年間活動実績

- 6月 ワカモノ×ミライなエネルギーについて提言を創ろう(六ヶ所村ツアー報告会)を実施(未来生活 now プロジェクトと共催)
- 7月 「エネルギーについて学び、よりよいまちづくりを追い求める」内部勉強会
～地域でエネルギーをつくる社会の実現に向けて～
- 8月 エネルギー地域自給の話しよう！～井筒耕平さんを囲む会～を実施(アジア太平洋資料センター[PARC]と共催)
- 11月 「土と平和の祭典 2014」へ出展、ブース名「ー未来の生命につながる生活や生命を大切にする経済のしくみに変える居酒屋ー」(未来生活 now プロジェクトと合同出展)
- 12月 「エコプロダクツ 2014」ブース出展(エコ貯金・未来生活 now と合同)
- 3月 「再エネ×金融×電力自由化」シンポジウム 主催



右：3月のシンポジウムでは、再生可能エネルギー推進のための金融の仕組みを海外事例をまじえて検討。

上：3月のシンポジウムでは若い世代の専門家・参加者を中心におよびし、関係を築きました。

チームリーダー（浜田恒太郎）より一言――

A SEED JAPAN に出会ったのは、2009年8月の大学4年生の夏でした。それから7年目を迎え、昨年からは初となるチームリーダーをやっています。活動をつくることの難しさを感じつつも、少しずつ手応えを感じている自分もいます。

2015年度は、これまでの経験を活かしつつ、具体的な活動をつかっていけるそんな一年にしたいと思います。

どうぞよろしくお祈りします。



■長期目標

中央アフリカの紛争地域に暮らす人々が不条理に脅かされず、ゴリラとの共生を選べる社会を目指します。

■2014年度の活動

目標1 ー携帯電話が引き起こす問題についての情報拡散

携帯電話が引き起こす問題について知っている人を500人以上増やします。

結果ー達成度 30%

・今年度はイベント出展だけでなく、講演会も開催するなど市民啓発の活動を重視してきました。しかし参加してみての実測値として、イベントブースへの来場人数は約150人、イベント参加人数は約50人程度と推定しており、短期目標に据えた人数だけ認知を増やせたとは言えないため、この達成度にしております。

目標2 ー紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を社会に発信

紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を明らかにし社会に発信します。

結果ー達成度 10%

・ケータイゴリラとしてアフリカで起きている問題の解決に貢献したいという思いから、改めてその根本原因を探ろうとしました。実際にアフリカのフリージャーナリストの天津司郎氏をお招きしての講演会を実施し、ジャーナリズムという視点からコンゴで起きている問題の根源を探りました。しかし、こうした根本原因を社会に発信するまでには至ることができませんでした。

目標3 ー不要な携帯電話1,500台をリサイクル、リユース回収

年に数回のブース出展や法人回収を通じて、不要な携帯電話1,500台をリサイクル、リユース回収します。

結果ー達成度 60%

・2014年度に回収できた台数は955台でした。目標とする台数には届きませんでした。法人回収で53台の携帯電話をリユースすることができました。リユースはリサイクルに比べ、資源効率が良くより環境に優しい回収方法であり、これを多く実施することができたのは大きな成果でした。



様々な団体・企業の皆様のご協力を得て、社内等におかせていただきました。
現在は携帯電話回収ボックスを、来からご協力いただいている一部の店舗とWE21 ショップに設置しています。

左：スパ南青山店（当時）
右：AVEDA ライフスタイル サロン（当時）

目標 4 ー 事業で得た収益を現地 NGO に寄付、ゴリラと人間の共生を促進する取組みを支援

事業で得た収益を現地 NGO に 20 万円寄付し、ゴリラと人間の共生を促進する取組みを支援します。

結果 ー 達成度 100%

2014 年度の事業を通じて得られた収益は 267,536 円でした。収益の寄付は 2014 年度ではなく、2015 年度になってから実施する予定ですが、金額目標としては達成することができました。
また、2008 年からこれまででポレポレ基金等に寄付をした金額は 1,729,598 円でした。



上：携帯電話回収には、当団体理事とボランティアメンバーが企業等に出向き処理をしました。

下：アースデイ東京での普及啓発活動の様子



■年間活動実績

- 4 月 アースデイ東京 2014 に出展
- 8 月 イベント「アフリカにおける野生動物の密猟の現状とその保全」実施
- 10 月 子どもとためす環境まつりに出展
- 12 月 WE21 活動報告会実施
- 12 月 イベント「日本人が知らないアフリカ紛争地域の今」実施
- 12 月 エコプロダクツ 2014 に出展
- 3 月 神奈川総合高校講師派遣
- 3 月 チーム活動を終了

■チームの活動終了に関しまして■

ケータイゴリラチームは「わたしたちの携帯電話がアフリカに暮らす人びととゴリラを傷つけている」という問題に着目し、ゴリラ保護と国内資源の有効活用を求めて 2008 年に誕生しました。
この「ゴリラを守れ!携帯電話回収キャンペーン」では、数々の企業、法人、団体とのパートナーシップ、市民の皆様からのご支援を受けてこれまでに 16,000 台以上の携帯電話をリサイクル・リユースすることができました。そのリサイクル・リユース収益をゴリラの保護団体である IGCP(国際 ゴリラ保全計画)、並びにポレポレ基金に寄付し、その総額はこれまでで 170 万円を超えます。

この場を借りて、改めてご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

組織概要

団体名	特定非営利活動法人 A SEED JAPAN (英文名 Action for Solidarity, Equality, Environment, and Development)
設立	1991年9月 (※法人格取得日 2014年4月1日)
代表	土谷和之・永井亮 (2015年度より)
事務局長	西島香織

2014年度 役員

理事

氏名	所属	担当	備考
浅田麻衣	首都大学東京大学院	2014年度共同代表/人材育成担当	—
梅本一成	会社員	2014年度共同代表/エコ貯金プロジェクト	—
小野塚彩	会社員	組織基盤強化・人材育成担当	2014年11月9日より
加治知恵	団体職員	エシカルメタルプロジェクト	2014年6月13日より
鈴木亮	SuzuMedia 主宰	未来生活 now プロジェクト	—
永井亮	横浜市立大学	ワカモノネットワーク担当	2015年2月8日より
永田諭史	東京大学	ケータイゴリラチーム	—
西島香織	A SEED JAPAN	事務局次長	2014年12月より事務局長
浜田恒太郎	会社員	エネルギーとまちづくりプロジェクト	—
宮腰義仁	A SEED JAPAN	事務局長/アースデイ東京事業部長	事務局長は2014年11月まで
谷戸蘭	会社員	未来生活 now プロジェクト	2015年1月24日より

監事

田辺有輝	NPO 法人「環境・持続社会」研究センター
------	-----------------------

会員

会員種類	総数(名)
正会員(学生)	11
準会員(学生)	6
正会員(社会人)	137
準会員(社会人)	10
合計	164

ご寄付

会員種類	総数(名)
企業	1
個人	128
合計	129

沿革

- ◆A SEED 国際キャンペーンの日本窓口として発足 (1990年)
1990年10月 世界約50ヶ国以上の青年環境団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」が欧米の26ヶ国でスタート。
1992年6月 リオデジャネイロで開かれた150ヶ国以上の首脳が参加した地球サミット(国連環境開発会議)およびNGOグローバルフォーラム(ブラジル)に代表を派遣。
- ◆任意団体 A SEED JAPAN として活動 (1992年7月～)
1995年4月 Youth Action for APEC キャンペーン発足。
1997年12月 気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)にて、メディアアピール活動を展開。
1998年1月 A SEED Europe と連携して「ウクライナ原発反対のDICE キャンペーン」を展開。
1998年7月 FUJI ROCK FESTIVAL でごみゼロナビゲーションが環境対策事業を開始。
2002年8月 国連持続可能な開発会議(南アフリカ・ヨハネスブルク)へ7名を派遣。
2007年3月 世界水フォーラム(大阪・京都・滋賀)にてアクシ

- ョンを実施。
2007年5月 アジア開発銀行(ADB)年次総会において、化石燃料から自然エネルギーへの転換を求めるパフォーマンスを実施。
2008年3月 Japan Youth G8 Project と共催で「持続可能な社会のための日本青年サミット/Japan Youth Forum Toward G8 Summit ~for Sustainable Society~」を開催。
2008年7月 北海道・洞爺湖で開催された洞爺湖 G8 サミット直前に、他のユース団体と世界青年フォーラムを開催し、政府担当者とのダイアログを実施。
2010年10月 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)へメンバー60名を派遣し、アクション、提言活動を実施「COP10 重要論点フォーラム～これだけは譲れない！ユースの視点」を開催。
2012年6月 国連持続可能な開発会議(リオ+20)へ活動メンバー3名を派遣。
2013年6月 アフリカ会議開発会議 TICAD5(横浜)に有志メンバーを派遣。
2014年2月 ごみゼロナビゲーション事業 分離・独立

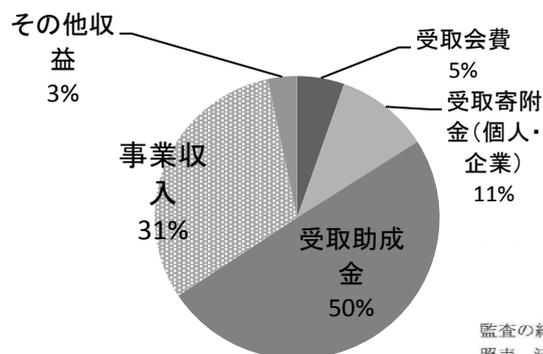
貸借対照表

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
		合計	合計
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金	14,188,488	未払金	161,407
未収入金	9,271,886	預り金	826,262
商品	51,560	負債の部合計	987,669
前払費用	100,520	正味財産の部	
【固定資産】		【指定正味財産】	
(1)有形固定資産		当期指定正味財産増減額	1,500,000
工具器具備品	1	【一般正味財産】	
		当期一般正味財産増減額	21,124,786
		正味財産合計	22,624,786
資産の部合計	23,612,455	負債及び正味財産合計	23,612,455

活動計算書

経常収益		経常費用	
科目	金額	科目	金額
受取会費	861,000	【事業費】	
受取寄附金		人件費	5,944,000
任意団体A SEED JAPANからの繰越	20,796,273	その他事業費	5,747,024
その他受取寄附金(個人・企業)	1,707,263	事業費計	11,691,024
受取助成金		【管理費】	
地球環境基金	4,795,000	人件費	416,937
Panasonic NPOサポートファンド	1,500,000	その他経費	3,614,940
SiDA(Fair Finance Guide)	1,180,193	管理費計	4,031,877
受取助成金振替額	500,000	経常費用計	15,722,901
事業収入	4,975,379	次期繰越一般正味財産増減額	21,124,786
その他収益	532,579	指定正味財産増減の部	
		受取助成金	2,000,000
		一般正味財産への振替額	-500,000
		当期指定正味財産増減額	1,500,000
		前期繰越指定正味財産額	0
		次期繰越指定正味財産額	1,500,000
経常収益計	36,847,687	次期繰越正味財産額	22,624,786

収入構造



全体収支としては、328,513円の黒字となりました。次期繰越金は、任意団体時代のA SEED JAPANからの繰越金を含め、2,200万円となります。2014年度は常勤有給スタッフ2名体制でした。地球環境基金助成では若手プロジェクトリーダーに、現事務局長の西島を起用し応募しました。事業収入は今年度のみ単発事業としてアースデイ東京2015事務局を受託しました。今後は会費・寄付の増加を目指します。

監事監査報告書

監査の結果、2014年4月1日より2015年3月31日までの第1期事業年度における貸借対照表、活動計算書、財産目録、事業別損益計算書、活動報告は、同時点の特定非営利活動法人A SEED JAPANの財産及び収支並びに理事の業務執行の状況を適正に表示しているものと認めます。

以上

平成 27 年 5 月 18 日
特定非営利活動法人 A SEED JAPAN

監事 田辺 有輝

A SEED JAPAN にご参加下さい！

1. 活動に参加する

プロジェクトのメンバーとして、月1~2回のミーティングに参加し、企画・広報・イベント運営・ロビーイングなどを行います！大学サークルや単発のボランティアでは得られないスキルが身に付きます。自ら企画を提案することももちろんOK。

事務局業務をお手伝いいただける方も募集中。将来 NPO で働きたい方向けです。

2. イベントに参加する

ASJ では、様々な環境問題・人権問題を扱ったセミナーを開催したり、野外出展をしています。会員の方は会員価格でご参加いただけます（最大無料）

継続的には参加できないけれどこの1か月だけは/この1日だけはかかわりたい！という方は運営ボランティアとしてご参加いただくことも可能です！

3. 情報をシェアする

会員用メーリングリストでは、ASJ からのイベント知らせや他の NGO のイベント情報も配信しています。さらに、ご自身に関わるイベントの告知も、会員にシェアすることができます。

A SEED JAPAN の活動をご支援ください

A SEED JAPAN は持続可能な社会をつくるために、経済の流れを作る法人の皆様との対話を重視しており、志ある法人の皆様とのパートナーシップを目指しています。

ご支援の方法

【お振込先】中央労働金庫新宿支店 普通口座 1436580

口座名：特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 代表 土谷和之

フリガナ：トクヒ ア シード ジャパン ダイヒョウ ツチャカズユキ

会場等物品の貸与等も受付させて頂いております。まずは事務局までお問い合わせください。

発行：特定非営利活動法人 A SEED JAPAN

発行日：2015年10月15日

編集責任者：西島香織

編集：西島香織、富田一

〒110-0005 東京都台東区上野 5-3-4 クリエイティブ one 秋葉原ビル 7階

E-mail : info@aseed.org

TEL : 03-5826-8737

FAX : 03-3834-1025

URL : http://www.aseed.org/

